

地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日： 令和5年（2023年）3月1日

作成者：（課名） 市民協働推進課

（氏名） 酒井喜久

1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚小学校区まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 宝塚らしい環境景観づくり ②地域の宝物をみんなで共有し、情報発信のできるまち
	【具体的な取り組み】 58 歴史博物館を作るよう働きかける（コミュニティ）
取組内容の関係課	社会教育課

2 対話の状況

(1) 実施概要
ア 日時： 令和5年2月 7日（火） 10:00～11:30
イ 場所： 市役所3-2会議室
ウ 出席者： 以下のとおり ＜まちづくり協議会＞ 宝塚小学校区まちづくり協議会 ● ＜関係課＞ 社会教育課 水野課長 オブザーバー ● ＜協働の取組推進担当次長＞ 古南室長 ＜市民協働推進課＞ 酒井

(2) 確認できたこと

ア 市とまち協から、前回の対話の振り返りを行なった後、歴史博物館（以下「博物館」という。）建設に関して、元宝塚市職員で郷土史家の●氏の考えをお聞きしながら、今後の取組に向けて意見交換を行った。

イ 博物館建設に関して●氏は、①基本的には博物館は必要と考えていて、個人的にもあった方がよいと思っている。②しかしながら、いざ建設するとなると、コストパフォーマンス、費用対効果が問われることになる。③博物館の建設費や維持管理費には莫大な費用が見込まれるが、それだけの費用をかけて展示していく歴史的遺産が、市民にどれだけ必要と考えられるかを思うと、多くの集客が見込める核となる歴史的遺産があれば別だが、これまでの経験からは非常に難しいと感じる。④現在、市内に小浜宿資料館と歴史民俗資料館が2館（旧東家住宅、旧和田家住宅）あり、市史資料室でも過去の貴重な文献等を展示している。⑤今後の人口減少社会を考えると、多くの文化芸術施設等が市単独では維持できなくなることも想定される等の意見を述べられた。

ウ まち協からは、市内の個人宅にも多くの文化財が残っている。これらを集約し、時代ごとに市の歴史がわかるように展示できる博物館が必要である。宝塚の歴史を知らない市民も多い。博物館は10年、20年先につくってもいい。お金がないことからスタートして考えていきたい。宝塚市には歌劇以外の観光文化がない。新しくできた文化芸術センターも我々が期待したコンセプトとは異なっている。今ある歴史的に貴重な遺産を時代別に展示し、宝塚市の歴史を紐解く場所が必要と思っている。展示は新たな施設を建設することだけでなく、既存施設の活用もある。お金の話をすると何もできない。要か不要かの二択では要であるとの発言があった。

エ 市から、事前に用意していた別紙「宝塚小学校区まちづくり協議会との対話資料「歴史博物館を作るように働きかける」」に基づき、歴史博物館等の整備に係る課題を説明。

オ 市からは、保有する建物施設の床面積の削減方針があり、博物館建設のハードルは高いが、何年か先に博物館構想が、いつどんなタイミングであるかもわからないので、文化財調査等の地道な活動を引き続き進めながら、準備を積み重ねていきたいと発言。

カ まち協からは、将来的に歴史博物館建設の声が上がった時に備えて、職員（できれば学芸員）を配置し、準備を進めていって欲しいとの要望が出された。

キ 次回の対話について、まち協から、新年度に入ってからでいいので、学芸員の資格を持っている市職員と歴史博物館建設についての対話を希望された。次回の対話の方法については、部内調整を行ってから回答することとした。